

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012



通常理事会で挨拶する藤巻司郎会長

通常理事会を開催 6議案を審議、総支部長等会議も開催

5月28日、平成26年度第1回通常理事会を開催し、平成25年度事業報告及び決算など6議案を審議・承認した。当日は通常理事会に先立ち、総支部長等会議も開催し、通常理事会の主要議案等について検討した。

日造協は、平成26年度第1回通常理事会を5月28日(水)、午後2時半から、東京・千代田区麹町の弘済会館で開催した。

通常理事会は冒頭、藤巻会長が、「造園建設業界を取り巻く経営環境は、公共事業費の削減局面から確保・拡大局面への転換、労務費単価の引上げ、ダンピング対策の強化、社会保険等未加入対策の本格実施などにより、この1年で大きく変わり、日造協では、業種区分の見直しなどの動きに対応した要望・提言活動、社会保険等未加入対策講習会の開催などの諸事業に取組んできた。今後も建設業法の改正やコンパクト・シティづくりの本格化などの政策動向や社会の新たな要請を的確に受け止め、造園工事の適正な施工体制の整備、技術力の向上と次代の担い手の確保・育成、やりがいと誇りを持てる雇用環境の整備、造園建設業の

社会的な認知度の向上と活動領域の拡大などに取組み、造園業界の発展はもとより、安全で快適な緑豊かな美しい国土環境づくりに貢献していく。皆様方には、日造協の運営につきまして、一層のご協力を賜りたい」と挨拶した。

その後、①平成25年度事業報告及び決算、②平成25年度公益目的支出計画実施報告書、③平成26年度通常総会の招集、④表彰規程の改正(案)、⑤総支部長及び支部長の承認、⑥会員の入会の6議案を審議・承認。会長、業務執行理事の職務執行状況などについての報告を行った。

また、当日は同会場で午後1時から、総支部長等会議を開催。平成25年度事業報告及び決算など7つの議題について検討、公園緑地・景観行政をめぐる最近の話題、建設業法等の一部を改正する法律案、女性技能労働者活用方策など、国の政策動向について、報告を行った。

人事異動

国土交通省都市局関係(6月1日付)
 都市局街路交通施設課長補佐=柄本徳満(都市局公園緑地・景観課緑地環境室課長補佐)
 都市局公園緑地・景観課緑地環境室課長補佐=辻淳一(都市局公園緑地・景観課付)

平成26年度

通常総会

講演会・意見交換会

6月25日(水)14:00～
 グランドアーク半蔵門
 東京都千代田区隼町1-1

☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。

本号の主な内容

- 2・3面【特集】第8回造園技術フォーラム 各発表及び講評の概要紹介
 東北・関東・甲信、北陸、中部、日本造園学会から5つの発表
- 4面 【学会の目・眼・芽】造園学会誌は「届いて」いますか?
 (公社)日本造園学会編集委員会幹事・大阪府立大学大学院助教
- 【ふるさと自慢】岐阜県 千三百年の伝統 長良川鵜飼 平塚英史(株)宝山園
- 【緑滴】暖かくなった都心で植栽レパートリー広げたい
 桑園亜希子(東光園緑化株・街路樹剪定士)

日造協会員の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。会員の方々へのメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載をしていますので、ご活用ください。

樹林

日造協理事、(株)葉隠緑化建設 代表取締役社長
久保和男



将来を見据えた佐賀県の造園建設業

野山の新緑が一段と冴え、1年を通じて一番気持ちの良い季節となりました。

この爽やかな5月のゴールデンウイークの真っ只中、震撼する新聞記事に眼が釘付けになりました。

県発表の試算によれば、100年後の佐賀県の人口は、現在の85万人から3分の1の28万2千人まで減少するという予想。

これは65歳以上の高齢人口が2026年以降は減少に転じ、高齢化のペースが速かった分高齢化人口減少も全国平均より10年早くなるという試算結果である。

特に、20歳代から30歳代の若い女性の人口が激減するとの予想である。このことは佐賀県のみに当たるのではなく、全国的にその傾向がみられ、中には自治体の消滅も懸念されること。

若い女性が少なくなればなるほど、子供の出生率が低くなり、雇用の面からも憂慮すべき事態になってくる。

このような社会現象のなか、我々造園業界に携わる者として、どのようにとり組むべきかを真剣に思案していかねばならないのではと痛感している。

我々の造園業界においても従事する作業員の高齢化が一段と進み、後継者の確保についても厳しい状態は変わらないが、日造協は、いち早く後継者の育成や造園技術の確保の面から、各種の認定試験や研修・講習会を実施してきたところである。

日造協佐賀県支部においても今年1月に街路樹剪定士の認定試験を開催し

たところ、予想以上若い方の受験応募があり、少しはあるが明るい兆しを得たところである。

一方、長年の景気低迷により造園に関する公共事業が減少し、厳しい状況が続くなか、県においては公共事業における造園部門の分離発注が実施されており、佐賀県の入札資格制度で、街路樹剪定士・植栽基盤診断士の重要性が認められ、技術等評価点として加点されることになり、造園資格技術の取得に大きな力添えとなっている。

一般的の公共事業に目を転ずれば、「アベノミクス効果」については受注増の傾向が見受けられているが、造園業まで波及するにはタイムラグがあり、なかなか目に見てこないのが実情である。県の造園業界として県・市町に対しての意見交換会を行い、県内の実情を申し述べてきたところである。

引き続き今年度も農林・道路・河川等の事業促進に向けての提案をし、特に県下一斉の街路樹の育成点検を行い、安全と、より景観を保つ為、今後も一層努力する決意である。

これから佐賀県における少子高齢化・人口減少を見据えていく中で、いかに造園業界の技術の継承と緑豊かな景観づくりに向け、「何をどのようにすべきか」を念頭に置き、県民の造園に対する要望に応え、業界の必要性を訴えていかねばならないと肝に銘じていく所存である。

本年度は、日本造園学会九州支部佐賀大会を11月に予定しており、またランドスケープ遺産も大会に合わせ、取り組んでいく所存である。

平成26、27年度 総支部長及び支部長一覧

総支部名	支部名	氏名	社名・役職名
北海道	再	廣澤 清隆	(株)道南レミック代表取締役会長
	再	嘉屋 幸浩	(株)園建代表取締役
	再	渡部 佐界	庄内園芸緑化株代表取締役
	再	山谷 弘美	環境緑花工業(株)代表取締役
	再	米内 吉榮	(株)米内造園代表取締役
	新	大場 啓壽	青葉造園(株)代表取締役
	新	鈴木 和男	(株)香楽園代表取締役
	再	渡部 佐界	庄内園芸緑化株代表取締役
	再	櫻井 貞夫	桜井造園(株)代表取締役
	再	加勢 充晴	加勢造園(株)代表取締役社長
関東・甲信	新	稻見不二意	不二造園(株)代表取締役
	再	山田 忠雄	山梅造園(株)代表取締役社長
	再	埼玉県 渡邊 進	(株)八廣園代表取締役社長
	再	千葉県 鈴木 一彦	(株)東松園代表取締役社長
	再	東京都 田丸 敬三	東光園緑化(株)代表取締役社長
	再	神奈川県 山田 康博	(株)サカタのタネ顧問
	再	山梨県 齋藤 陽一	(株)富士グリーンテック代表取締役社長
	再	長野県 山崎 信幸	(株)長遊園代表取締役社長
	新	北 総一朗	北造園(株)専務取締役
	再	新潟県 磯部 久人	グリーン産業(株)常務取締役
中部	再	富山県 久郷 憲治	(株)久郷一樹園代表取締役社長
	新	石川県 北 総一郎	北造園(株)専務取締役
	再	岐阜県 大島 嘉七	大島造園(株)代表取締役会長
	再	静岡県 小栗 勝郎	(株)岐阜造園代表取締役会長
	再	愛知県 内山 晴芳	天龍造園建設(株)取締役社長
	再	三重県 大島 嘉七	大島造園(株)取締役会長
	新	水谷 春海	(株)水谷造園専務取締役

総支部名	支部名	氏名	社名・役職名
近畿	新	小林 正典	(株)小林造園代表取締役
	再	宇坪 啓造	北陸緑化(株)代表取締役会長
	新	上田 誠	(株)植木専務取締役
	新	京都府 佐野 晋一	(株)植藤造園代表取締役
	新	大阪府 大原 優	キンキ緑地開発(株)代表取締役
	再	中西 勝	(株)中西総合ガーデン取締役会長
	再	奈良県 中島 祥之	花佐造園(株)代表取締役社長
	再	和歌山県 井内 優	(株)井内屋種苗園専務取締役
	再	正木 大	みずえ緑地(株)代表取締役
	新	岡山県 小林 和義	(株)武田園代表取締役社長
中国	新	広島県 坂本 稔二	廣島緑地建設(株)代表取締役社長
	新	鳥取県 西谷 勝之	山陰緑化建設(株)代表取締役社長
	再	島根県 持田 正樹	(株)もちだ園芸代表取締役社長
	再	山口県 多々良健司	(株)多々良造園代表取締役社長
	新	森 茂	(株)森造園代表取締役
四国	再	徳島県 関 正義	マルセー緑化建設(株)代表取締役
	再	香川県 古家 敏弘	(株)山地宝松園代表取締役
	再	高知県 植田 誠司	(株)南国緑地建設代表取締役
	新	愛媛県 高須賀盛満	高須賀緑地建設(株)代表取締役
	再	木上 正貢	木上梅香園(株)代表取締役
九州	再	福岡県 執行 英利	(株)執行茂寿園代表取締役
	再	佐賀県 久保 和男	(株)葉隠緑化建設代表取締役社長
	再	長崎県 田舎 豪裕	(株)庭建代表取締役
	新	熊本県 佐藤 保夫	伊勢造園建設(株)代表取締役
	再	大分県 川津 潔	(株)大山代表取締役
沖縄	再	宮崎県 德地 信一	(株)橘緑地建設代表取締役
	再	鹿児島県 井上 恒治	井上総合緑化建設(株)代表取締役
	再	森根 清昭	(有)海邦造園代表取締役

第8回造園技術フォーラムは4月23日、浜松市のアクティティで開催し、多くの会員が参加しました。本号では、発表の概要を紹介します。なお、当日の資料は、日造協の会員サイトからダウンロードすることができます。ご活用ください。

東日本大震災 緑の復興を担う植栽マニュアル

東北総支部 宮城県
石出慎一郎氏（東洋緑化株）



東日本大震災の復興で、造園工事は最後の方になります、今後本格化すると思いますが、造園業に携わる方は当たり前のことでも、一般にあまり理解されていません。

そこで、「植栽工事マニュアル」を作ることで、皆様に知っていただく機会が増えるのではないかと思っています。

被災3県から東北地方に発展を

マニュアルの作成は、大きく3つの点に注意しました。1つは、東北は6県ですが、気候で分けると19地域になります。気象条件が厳しく、適切な植物、技術で植栽する必要があり、地域の特徴、技術をまとめることにしました。2つ目は、地域ごとの施工技術、施工時期などをまとめた例は少なく、技術の伝承や業界のPRに活用することにしました。3つ目は、被災3県から東北地方版に発展させる、また、他の地域にも展開できるベースになるようなものを考えました。

具体的には、「造園編」で、造園工事の流れや資格の再認識について示し、計画（プラン、デザイン）、施工（施工管理、工事施工）、管理（運営管理、維持管理）について整理しました。



植栽には、適切な土壤や枯損防止対策、育成管理が不可欠

モントリオール・ モザイカルチャー世界博2013

中部総支部 静岡県
小林天竜氏、坂口加奈子氏（天龍造園建設株）

モザイカルチャーは、様々な造形を植物で表現するもので、世界大会は、2000年にモントリオールで第1回大会、2009年には浜松で第4回大会を開催。次回はトルコで2016年に行われます。

モントリオール・モザイカルチャー世界博2013は、「希望の地」を大会テーマに、絶滅危惧種と生態系、都市の自然などをサブテーマとし、6月21日から100日の会期で、好評により最終的に1週間延長。会場はモントリオールオリンピック公園内の植物園で、21カ国52作品が出展。日本から浜松市、広島市、渋谷区、国営沖縄記念公園が出展しました。

モントリオール市は、日本の最北端と同じくらいの北緯で、北米のパリと言われ、街並みはおしゃれで都会、公用語が英語、フランス語の多民族都市です。

日本のモザイカルチャー発祥地「浜松」

浜松市は、2006年の上海大会に出展し、浜松市が日本のモザイカルチャー発祥の地で、園芸技術・園芸文化を有する都市としてアピールするために今回も出展しており、6名の技術者の派遣が行われました。開催期間中には、浜松市長もスピーチを行なうなど、注力しています。

「植栽編」で、東北の気候の厳しさ、被災三県の特徴を示し、①造園植栽の手順（気候の多様性、現地の把握）、②樹種選定における留意点（適地、適木）、③植栽基盤整備、④適期・不適期（適期、不適期対策）、⑤苗木植栽による緑化（防潮林、道路法面植栽）、⑥育成管理（樹木管理の重要性）、⑦植栽の適期・不適期表、⑧枯損防止対策（防寒、防雪対策の方法）などで構成しました。

造成時の表土保全も大事ですが、造成後の植栽工事が大半で、植栽基盤の整備の必要性を解説しています。

今回の被災沿岸部で特に有名になった嵩上げ道路や防潮堤の法面植栽も重要です。このため、道路公団の時代に技術が確立された「網柵工法」など、落葉樹と常緑樹を組み合わせた苗木の植栽についても紹介しています。

「育成管理」の必要性説く

また、「植物は放っておいても育つでしょう」との認識がまだ多い中、そうではないので、「育成管理」の必要性を説き、防風シートや荒縄掛け、発根抑制剤などを紹介しています。関東では、落葉樹に幹巻きをすると、東北では乾燥防止のため、常緑樹に幹巻きをするなど、地域で対策が異なります。

さらに、私たち業者の言葉だけでなく、宮城大学の森山副学長、と野田坂緑研究所の野田坂氏から「学識者からのコメント」を得て、社会性を持たせました。

パンフレット欲しい方は日造協本部にお問い合わせいただければと思います。
最後に、地域ごとにこうしたマニュアルを作成することは、地域特有の技術を広め、理解することになります。ぜひ、各地域で作成いただければ、造園業界にとって貴重なものになるのではないでしょうか。

浜松市の
出展作品
は、高さ8
m、約6万
株のプラグ



苗を使用。「創造都市・浜松～未来へつなぐ人と自然の共生～」をタイトルに、楽器などのものづくりを中心に花緑の普及、自然動植物の保護を積極的に行っている産業と自然の調和の取れた街であり、音楽分野でのユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を目指していることから、作品のメインに浜松市を象徴するピアノを用いています。

また、日本三大砂丘のひとつ中田島砂丘の風紋をランドアートとし、自然保護活動の恩恵で砂丘に産卵する絶滅危惧種のアカウミガメと、大きな恵みをもたらす水をピアノが奏でる音に見立て、希望の地へ飛び出していく姿を表現しました。

施工は、躯体ができているとの話で現地に向かったものの出来上がっておらず、



浜松市のピアノをモチーフにした出展作品

第8回 造園技術フォーラム

幅広く社会に役立つ技術を持つ造園

基盤整備作業機（FTM）を用いた 「造園式芝生除染・更新方法」

関東・甲信総支部 千葉県
松戸 克浩氏（株新松戸造園）



月に県土整備部公園緑地課にお願いし、震災から1年後の3月に千葉県立柏の葉の公園・桜の広場で実施しました。

地中の根を残す芝生除染・更新工法

「造園式芝生除染・更新方法」は、芝の葉と地表のほふく茎のサッチ層（深さ約15~25mm）を削りするもので、地中のほふく茎や根を残すものです。

公園緑地等、大面積の芝生地においては、機械の力が不可欠で、ゴルフ場などで使用されている基盤整備作業機（FTM）・バーチカッターを用いました。

実証試験は、環境省の指針に基づき、3区画で違った除染を実施。①は芝の葉からサッチ層までを除去。②は土壌上面から15mmを削り、③は土壌上面から25mmを削りました。刈り取った芝や切削した土壌はすべて大型土のうに入れて保管。各試験区の発生量を確認しました。

地域性を活かした城石積み

北陸総支部 富山県
栗山 博氏（株久郷一樹園）



今回紹介する城石積みは、富山城の城址公園整備の一環で、市が管理する地下駐車場出入口の両側のみが石垣になっており、これを整備するもので、3年前に私が現場代理人として行いました。

富山城は、前田のお殿様の居城で、焼失や戦災などにより、現在の石垣のほとんどは復元されたものになっています。そのため、現存する石垣と調和させることができが一番の課題となりました。

勾配は1:0.35と非常に急であり、石垣の後ろに補強土壁を設けています。具体的には、蛇かごを積み上げ、石垣との間に裏込めにはコンクリートと玉石で、水抜きパイプも設置しました。

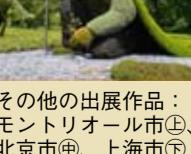
白い石が御影石で、黒っぽい石が安山岩で、当初私はコスト面からも中国の加工品で施工しようと思っていたが、社長などから、「そんなことをしたら富



城址公園（歴史文化ゾーン）施設その4工事 着工前㊂ 完成後㊃

予算やスケジュールもあり困惑しましたが、他の都市のお手伝いをし、その後手伝ってもらう形で何とか間に合わせることができ、好評を得ることもできました。

その他の出展作品では、モントリオール市の作品が、人気のため2回連続出品で、最高賞を獲得した北京・上海の作品は、20人ぐらいの多勢で制作。カナダの作品は、審査対象外北京市㊄、上海市㊅



でしたが、その大きさが圧倒的でした。

ぜひ取組みを！お手伝いします！

モザイカルチャーは、植物の成長で作品の完成度が上がり、その変化も楽しめます。緑化フェア会場にも作品があり、浜松駅前にも、市のマスコットキャラクター「出世大名家康くん」があります。また、いろいろな方々とのコラボレーションも魅力で、世界が広がります。ぜひ取り組んで見て下さい。ご相談いただければ、お手伝いをさせていただきます。



植物の成長で変化する作品（カナダ）

各発表及び講評の概要紹介

広くPRし、認知度を高め、活用しよう

この結果、②と③で高い除染効果が確認でき、6月の経過確認でも放射線量の基準値を下回り、未作業の隣地の芝生と比べ、遜色がない程度に芝生が回復。土木業界も除染試験を行っていましたが、望んでいるような効果が出なかったようです。

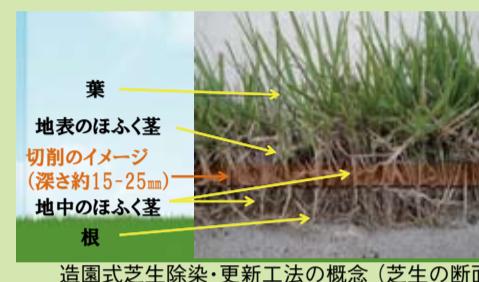
造園の力を信じて良かった！

こうしたことから、2012年8月に「造園式芝生除染・更新方法」を活用した除染工事を行い、その後、県立都市公園で除染作業を実施したほか、汚染状況重点調査地域の県内4市も同工法を取り

入れ、放射線量の低減ができました。

まだ、裸地になってしまっている公園が多いことはとても残念ですが、私たちが取り組んだ除染力所においては、事故前と変わらずに利用されています。「今ある緑を失うことなく除染効果を出そう」と、造園の力、植物の持つ力を信じ取り組んで良かったです。これは「命を支える造園技術で未来を支える」という日造協のスローガンにも合致していると思います。

これからも造園の力を多くのために活かしていきたいと思います。



たので、コンクリートの灌水養生を行い、石材を搬入し、石材加工となりました。

御影石500t、安山岩110tを搬入

石は、厚み500~600mm、長さ900mm、控え750~800mm程度で、5、6tの御影石を加工すると2t程度と、ルートハンマーやせり矢、ライトピックで加工しましたが大変でした。1つの石を粗い形にするまで職人1人が1週間掛かり、これを積み上げ、最後にのみで叩きます。最終的に計算すると、全体で御影石を500t、安山岩を110t搬入しています。

また、安全対策等では、石の加工時には、送風機や飛散防止ネットなどを使用。新技術提案も求められたことから、養生の鉄板を溶接ではなく、リングプレートとしましたが、ずれもなく有用な方法としてお勧めします。



石材加工②と石垣天端石の施工状況



イメージアップ
(案内板の設置:
後は飛散防止ネット)
②.新技術(リ
ングプレート②)

コンテンポラリー 風景デザインと造園技術

(公社) 日本造園学会
阿部伸太氏 (東京農業大学)



私は計画系で、施工の方々にお役に立つお話をすることは難しいですが、題材の学会誌「ランドスケープ作品選集No.12」に私の経験を教えてお話しします。

「ランドスケープ作品選集」は、自然・公園・文化・教育・居住・業務・商業・企画・イベントなど、多岐にわたっていますが、歴史の中にある造園技術を、いかに近年の動向を捉え、次なる戦略にしていくかを考えていきたいと思います。

自然を身近にし視点場を確保する

まず、「自然・公園」、自然を身近にする場づくり、視点場としての公園についてです。私は2009年9月から1年間、フランスに留学させていただきました。フランスには、モンブランなどが望めるリゾート地・シャモニーがあり、富士山よりも高い展望台に2つのロープウェイを乗り継げば、サンダルで行けます。本格的な登山の一方で、誰もが壮大な自然を楽しめます。日本の自然公園は、自然保護に重点が置かれていますが、こうした発想も今後必要です。

東京・世田谷の田園調布がある国分寺崖線の緑は、風致地区指定当初の単一樹林地が都市化で様変わりしています。しかし、樹林を上手く残した住宅や公園などで風致の連続性を保っています。こう

表で感じたことを述べたいと思います。

植栽工事マニュアルは重要で、技術の継承にも不可欠。東北19地域を網羅したものをぜひ作っていただきたい。難しいとは思いますが、もっと踏み込んだ具体的な第二弾を期待しています。

造園式除染・更新工法は、素晴らしいことで、今あるものを活用するという着眼点がポイントでこれを形にされています。しかし、これだけ素晴らしいことをやっているのに、一般に知られていないもっと造園全般で取り組んでいいかなければならないと思います。

石積みは、遠慮がちに話され、石の加工と積んでから表面を仕上げると簡潔な

した風致資源の保全、さらに明治神宮のような緑の創出を都市計画として考える必要があります。

視点では、パリには高さ規制があり、中心部は低く、外が高く、さらに視点場としての付属規制があり、公園からエッフェル塔が見えるようなど、ポイントでの眺望がきちんと確保されています。

文化や風景、人をつなぐみどり

「文化・教育」は、過去、風景との連續性、子どものころから接する仕掛けについてで、名園など歴史的なものを保存することで「時間をつなぐ」ことができ、密集した市街地にいても、樹林があると自然豊かに見えるなど「借景：風景をつなぐ」ことができます。景勝地にそぐわないものが見える場合などでも、1本の樹木で景観を保つことができます。

「世界の車窓から」という番組があるように車窓文化は世界的で、パリの街にも車窓が楽しめるオリエントエクスプレスがやってきます。日本では、寝台列車が相次ぎなくなる中、JR九州がクルージングトレイン「ななつ星」を運行し、30億円という車両が話題ですが、提唱者の水戸岡氏は「30億円の額縁をつくった」と言っています。車窓からの景観が財産なのです。

こうした子どもの頃から接する原風景、体験が教育の基本とも言えますが、都市計画の先駆者で教育者でもある尊敬する石川英耀氏は、まちづくり、ひとづくり「仲よくすることは良きことなり」としており、まさにその通りだと思います。

高木など植物の構成で変わる街の印象

「居住・宿泊」については、「緑が多くてきれい」と多くの人が憧れる東京・成城の道路に面した緑を調査しました。すると、美しいと言われる場所は圧倒的に高木が多くみられました。植物の組み合わせで街の印象が変わってきます。これから街づくりのヒントだと思います。

「外構」からの脱却をいかに行うか

「業務・商業」については、最近、大規模な再開発が行われていますが、これまで以上に緑のデザインをどうするかが重要で、「外構」からの脱却をいかに行うか、「たまり」空間といった都市の賑わいをつくることも欠かせません。

こうした空間づくりはもちろんですが、そこに何かがあればさらに魅力が増します。それが、企画やイベントになります。

“かね”生み出す空間づくりとは

「企画・イベント」は、場を魅力付ける新たなライフスタイルの提案です。「八ヶ岳俱楽部」は、俳優の柳生博さんがつくれ、息子さんで園芸家の柳生真吾さんなど、ご家族やスタッフで運営されていますが、手を入れなければ单なる森でした。しかし、今は人気の観光地になっています。こうして、人が手を入れることで、“かね”生み出す空間にすることができます。個人のお庭を含め、お



“かね”を生み出す緑の空間（八ヶ岳俱楽部）
“かね”をかけるということだけではなく、芝生地、木陰など、ちょっとした魅力でずっと価値が上がるのです。

「ライフスタイルの提案」などカギに

今後、「ライフスタイルの提案」「新たな造園事業の展開」「地域の活性化」「生き生きとした人生」—そういったものを提案できるかがカギになります。

なぜフランスの田園が美しいのでしょうか。産業、ライフスタイルとして確立していることも一因であり、農産物の自給率は120%で、外食は高いが食材は安く、家庭で料理を楽しんでいます。

日本のライフスタイルはどうでしょうか？ここで気になることにシニア世代の高級志向があります。高級車が売れ、高級旅館のリピーターが増えているという現象です。高級車の広告は性能ではなく、ライフスタイルをPRしています。

造園に携わる私たちは、こうしたことに対する敏感になる必要があります。それは、私が今日一番言いたいこと「日本文化と指定管理者制度」です。こう言うとわかりにくいですが、今まで断片的に話してきたことをこういう暮らししがいいなというところにつなげていく。指定管理者制度が広がり、清掃やイベント業者の方が受託すると、今まで大切にしてきた緑が無くなってしまうかもしれない、私はそういう危惧を持っています。審査に関わる機会もありますが、提案の仕方が他業界の方が圧倒的に上手です。もう少し何とかしなくてはいけません。

原点を振り返りもっと面白い展開を

最後に、「にわ」の原点についてです。日本庭園を個人の方がつくることは少なくなった。実用であった庭が鑑賞のためだけの庭になってしまったからだと思います。ですから、今後、緑の空間を作っていくときには、ライフスタイルとセットで考えていただきたいと思います。

計画の話で、施工の話ではないと思われる方もいらっしゃるかもしれません、積極的に取り組むべきです。現在、進展している企業は、軸足をきちんとしながら一步先へ、片足を出すなど、これまでとは違った視点で取り組んでいるように思います。私たちもそうすることで、もっと面白い展開ができるのではないかと思います。そうすると、今までよりもっと楽しく、元気になれるのではないかと期待をしています。



講評

(公社) 日本造園学会
佐々木邦博氏 (信州大学)

私の専門は、造園史・原論で、現場とかけ離れていると思われがちですが、発掘すると昔の技術良く分かり、様々な技術の上に造園空間が成り立っていますが、見えない、見えにくいものが多く、社会に広く知ってもらわなければなりません。

あのベルサイユ宮殿の噴水も、噴水のために地下室があることは知られています。現場の技術の積み重ねこそが造園の本質です。早速ですが、これまでの発

表で感じたことを述べたいと思います。

植栽工事マニュアルは重要で、技術の継承にも不可欠。東北19地域を網羅したものをぜひ作っていただきたい。難しいとは思いますが、もっと踏み込んだ具体的な第二弾を期待しています。

造園式除染・更新工法は、素晴らしいことで、今あるものを活用するという着眼点がポイントでこれを形にされています。しかし、これだけ素晴らしいことをやっているのに、一般に知られていないもっと造園全般で取り組んでいいかなければならないと思います。

石積みは、遠慮がちに話され、石の加工と積んでから表面を仕上げると簡潔な

説明でしたが、積むことも図面通りなどいかず、復元でもなかなか元通りにいきません。予算や工期の問題もあり、こうした技術の継承、新しい技術を含め、メリットデメリットの整理が重要です。

モザイカルチャーは、日本ではまだイベント用だと思われていますが、ホテルなど常設の利用、立体性が特徴の技術ですが、あえて平面の壁面緑化で用いることより多くの場面で使用できるはずです。

阿部先生がお話しされたように、造園は非常に幅広く、社会に役立つ技術を持っています。しかし、PR不足など、まだまだ認知度が足りません。

学会からの宣伝になりますが、「ラン

ドスケープ遺産」は、もうはじまって6、7年になりますが、開発などで消失してしまうものがあり、保存もされず、調査もなされないままに無くなってしまうものもあります。こうした遺産は、学術性やデザイン、技術の面から重要ですが、技術がなかなか出ず、先進的な技術、画期的ではなく、かつて一般に行われていたが現在なくなってしまっていることは、非常に残念です。すべて技術を何らかの形で残しておければと思います。造園学会の各支部ごとに進行しているので、ぜひご紹介いただきたいと思います。

学会の目・眼・芽 第57回

造園学会誌は「届いて」いますか？

(公社)日本造園学会編集委員会幹事・大阪府立大学大学院生命環境科学研究科助教 武田重昭

最新号のランドスケープ研究(78巻1号)から、背表紙に特集タイトルが入ったのをご存じでしょうか?

3ヶ月に1度届く学会誌は、本棚に並べられて、何年の何号かは分かりやすくデザインされていましたが、「そうそう、あの特集号に記事が載っていたな」と思いあたって探すときには、たしか何年前くらいの特集だったなどという勘を頼りに引っ張り出すか、webで検索してから本棚へ足を運ぶという作業を経るしか方法がありませんでした。これからは、本棚に並ぶ他の書籍

と同様に、背表紙からでも内容をお伝えすることができるようになりました。

また、前号の77巻4号の特集「オオタカをめぐる多様なかかわり」では、特定種の問題としてだけでなく、自然環境の開発や保全に関するランドスケープの多面的な見方について捉るために、客観的な立場から編集委員が特集記事に対する「コメント」を付け加えることを試みました。

これらは、ほんの小さな改善ですが、これからももっと読者の皆さまが学会誌を身近に感じ、有効に活用して頂き、

愛読・愛蔵したくなるような工夫を重ねていければと考えています。

編集委員会では、毎回熱の入った議論を行っています。例えば、インターネット時代における学会誌という紙媒体が持つ意味については、アーカイブ的な価値だけでなく、社会的な議論が巻き起こるきっかけとなるようなテーマが考えられないか、また、単に最新事例が並ぶだけの誌面構成ではなく、web検索では知り得ないような事例の背景や思想、今後の展望などについての内容が理解できるような誌面にするべきではないか、一方でwebとの連動も視野に入れ、学会ホームページを活用した読者の声を誌面に反映させる仕組みも考えられるのではないか、と

いた意見交換を行っています。

海外では、建設プロジェクトなどが実現することを、「deliver」ということがあります。学会誌も単に「発行」したり、webで情報を「公開」したりする一方通行の発信だけでなく、読者の皆さま一人ひとりの気持ちに「届け」、コミュニケーションを促進するツールになるようにしていければと思います。

毎号封筒を開けるのが楽しみな学会誌、次号が届くのが待ち遠しい学会誌、自分も議論に参加してみたくなるような学会誌、そんな「ランドスケープ研究」づくりができれば、これほど嬉しいことはありません。

ぜひ、皆さまのご指導、ご支援をよろしくお願ひいたします。



金華山の東側山麓で発掘が進められている館跡に隣接する織田信長の庭園遺構



飼を楽しんだついでに信長の庭園遺構を訪れ、当時の庭園の姿を思い浮かべてみてはいかがでしょうか。

杉山秀志(岐阜県支部事務局長)

東京・池袋、都会の真ん中に建つビルの屋上、「天空のオアシス」をコンセプトとして3年前にリニューアルオープンをしたサンシャイン水族館。その中にあるマリンガーデンは、南国リゾートを思わせる植栽でお客様を迎えます。私は、そこの植栽管理を担当しています。

3年目を迎えた管理を通して思うことは、東京の冬は私が思っていたよりも暖かく、ビルの屋上の観葉植物が思ったより長期間生育するということです。

この南国庭園には数多くの観葉植物を植栽しています。それらの植物の多くが、書籍内の管理方法『外気温△℃以下になったら室内に入れる事』と記載しています。

寒さで傷んだ植物をお客様には見せられないけれど、出来るだけ長い間、南国植物で彩られた庭園を楽しんでいただきたいと思います。そのため、秋から冬にかけて天気予報の最低気温と植物の状態



気にしなかった最低気温ですが、東京で5℃を下回るのは12月中旬以降で、私が思っていたよりも随分遅かったです。植栽している観葉植物の多くは最低気温5℃が取替え目安なので、12月上旬までは庭園を彩る事が可能ですが(場所によりますが)。また、鹿児島の南端でも落葉するハイビスカスは、屋根のあるエントランスでは葉を付けたまま冬越しをする事ができました。流石に冬に花は咲きませんが、南国植物の代表格ハイビスカスは1年中お客様に見てもらう事が出来そうです。

ヒートアイランド現象により暖かくなった都心では、冬越しができる南国植物はもっとありそうです。これから色とりどりの面白い植物を配植し、ビルの屋上という環境下での生育状況を観察・理解することで植栽デザインのレパートリーを広げていきたいです。そうして、水族館に来館された方が、非日常空間を楽しむための、より面白い雰囲気を提供できればと思います。



桑園 亜希子
東路樹剪定化専門士
街路樹緑化促進会員

3(火)・総務委員会(広報活動部会)

13(金)・国土交通省との意見交換会

18(水)・社会保険等未加入対策実務講習会(石川県支部)

25(水)・通常総会、臨時理事会、意見交換会

●総務委員会(財政・運営部会)

平成25年度事業報告及び決算報告、公益目的支出計画実施報告書等について審議した(5/19)

●技術委員会(技能五輪部会)

技能五輪全国大会運営委員・協議委員合同委員会に出席し、愛知大会(11/28～12/1)について検討した(5/15)

●事業委員会(人材育成部会・地域リーダーズ幹部会)

次期幹部や平成26年度の実施計画について検討した(5/15)

委員会等の活動

●総務委員会(広報活動部会)

日造協ニュース5～7月号の内容について審議した(5/12)

編集後記 「日造協ニュース」のアンケート回答ありがとうございました。参考になるご意見ばかりで、今後の紙面へ役立てていきたいと思います。

ふる
岐阜県
と
慢

千
三
百
年
の
伝
統
長
良
川
鵜
飼



メインの魚や郷土の山菜を載せホウの葉で包んだ「ほう葉寿司」

平成26年度 全国安全週間

7/1～7/7 実施 6/1～6/30 準備期間

平成26年度全国安全週間が、厚生労働省、中央労働災害防止協会の主唱で、平成26年6月1日から6月30日までを準備期間に、7月1日から7月7日まで実施される。

平成26年度の全国安全週間のスローガンは、「みんなでつなぎ 高まる意識達成しようゼロ災害」で、日造協では協会名入りポスターを作成しています。どうぞご活用ください。

事務局の動き

[5月]

12(月)・褒章伝達式

・総務委員会(広報活動部会)

15(木)・技能五輪全国大会に係る合同委員会

・地域リーダーズ幹部会

19(月)・総務委員会(財政・運営部会)

・建設物査査会との意見交換会(技術委員会)

・(公社)日本公園施設業協会通常総会懇親会

21(水)・植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)

・「かながわのみどりを創り、育てる」集い

22(木)・運営会議

・日本造園建設業厚生年金基金理事会・代議員会

23(金)・監事監査

- ・(一社)日本造園組合連合会通常総会交流会
- 24(土)・第25回全国「みどりの愛護」のつどい
- 25(日)・技能五輪全国大会の課題トライアル
- 27(火)・植栽基盤診断士認定委員会
- ・第24回「緑の環境デザイン賞」表彰式
- 28(水)・総支部長等会議
- ・第1回通常理事会
- ・(一社)日本運動施設建設業協会講演会、懇親会
- 29(木)・社会保険等未加入対策実務講習会(福島県支部)
- ・(一社)ランドスケープコンサルタント協会総会懇親会
- 30(金)・技術委員会(調査・開発部会)

[6月]

1(日)・まちづくり月間～6月30日